シルバー江田島

第 7 号

平成8年1月1日

<発 行>
㈳江田島町シルバー人材センター
江田島町ふるさと交流館内
TEL（0823）42－5211

親子創作コーナー

好評だった町民文化祭初参加

十一月三日の町民文化祭に、シルバー発足以来、初めて参加しました。

当日は八時半に会場である江田島中学校に集合、前日の準備を点検し、町民の参加を待ちます。

三階の図書室に設けられた『シルバーセンター展』には会員の作品がずらりと展示され、訪れた人はそのみごとさに感嘆の声をあげ、作品は次々と売れていきます。展示された作品は、水彩画・額縁・花台・帽子・花セット・筆立・かご・竹ぼうきなど。午後二時すぎ、展示品はほとんど売れ、九三、二五〇円の売上げ。

一方、中庭に設けられた『親子創作コーナー』では、会員が指導しての竹トンボや水鉄砲づくり。親子で作った竹トンボを飛ばして喜ぶ子どもの顔が印象的でした。その隣は綿菓子店。三〇〇近くが売れました。

センター展で訪れた人々は、

「とてもよくできていますね。」

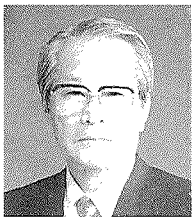
「コーナーのあることを知らなかった。竹ぼうきが欲しかったのに。」

「会場が一階であればよいのに。」

などの感想をもらしていました。

期待以上の参観者にえびす顔の下平次長は、

「最初はとても心配でしたが、町民の方が結構来て、品物を買って下さってとても嬉しかった。それにシルバーの宣伝にもなり、よかったと思いま



シルバー人材センターに期待を寄せて

江田島町長　平木重己

シルバー人材センターの皆様、明けましておめでとうございます。

昨年は何かと大変ご協力をいただき、有り難うございました。本年も宜敷くお願い申し上げます。

人材センターも法人となって四年目を迎えられます。理事長をはじめ、役員・事務局また会員皆さんの団結・友愛の中で、本町のシルバーセンターが立派な社会的位置づけを確保されたことを心から喜んでおります。会員数も約二〇〇名、年間受注契約額も約五、〇〇〇万円に達する実績は高く評価されるものであります。

我が国は、今世界一の長寿社会を迎えております。我々のライフスタイルも大きく変わりつつあります。六〇年代、七〇年代は現役であると言うべきです。会員の皆さんが長年培ってこられたノウハウを活用し、元気でのびのびと社会参加することにシルバー人材センターの大きな社会的存在意義があるのだと信じます。

このことをふまえ、会員の皆さんが今後とも相互の触れ合いを深める中で、地域社会から寄せられる信頼と期待に応えられるよう念願しております。これからが、シルバー人材センター発展の正念場ではないかと思っております。　行政といたしましても、センターの更なる発展を願い、出来るだけの支援を惜しまないつもりであります。

終わりになりましたが、会員皆様のご健勝を心からお祈りしつつ新年のごあいさつといたします。

今年も皆さんと一緒にがんばります

理事長　山佐一男

明けましておめでとうございます。

皆様もそれぞれ良い年を迎えられたことと思います。

江田島町シルバー人材センターも四年目の新年を迎え新しい気持ちで頑張りたいと思います。

昨年はいろいろとお世話になりました。お蔭様で会員も二〇〇名となり仕事も四月から十月まで六八二件（一〇八％増）、契約金額も三、一〇一万円（一〇三％増）と順調に伸びています。

これも江田島町当局、会員の皆さん、事務当局の三身一体の取り組みと、住民の皆さんのご協力の結果だと思っています。

心からお礼を申しあげます。

昨年で特筆すべきは初めて参加した町文化祭、別府への親睦旅行は皆さんの盛り上がりで盛大に終わりました。

これは、良いコミュニケーションの場となり、良い思い出となって今後センターの基盤になるものと確信しています。

今年の課題は、センターの拠点である「ワーク・プラザ」の建設促進です。ワーク・プラザの建設については、いままで町・県当局へ働きかけてきましたが、今年も引き続いてやりたいと思います。

次は、新しい就業開拓として、福祉・家事援助サービス事業だと思います。

これからの高齢化・核家族化等により、地域社会における高年齢者や、身体の不自由な人達に対する福祉の家事援助サービスの提供に取り組んでいく必要があると思います。

今年も皆さんと一緒に頑張りたいと思いますのでよろしくお願いします。

『親子創作コーナー』脇の綿菓子売場では角川会員さんが大忙し。

「綿菓子づくりは交替要員がいなくて大変でした。おかげで腕が痛くなりました。来年はぜひ交替要員を。」

「会員の作られた作品は、これが素人のものかと思われるほど。私も何点か求めました。」

「来年は今年以上のものにしなければ。」

というのが会員大方の意見でした。

知覧・鹿屋を訪ねて

ガイド班 第三回研修

ガイド班九名と一術校広報展示室の八木、山和両氏の十一名は、十月二十七日㈮十八時、車二台に分乗して出発。呉中央桟橋から別府行「由布」に乗船、予約していた関係上、既に席は確保されていた。そこで二十二時の消灯までお互い情報の交換に余念がなく、翌朝四時過ぎから又もや意志の疎通を図る等、よくぞシャベル種がつきないものと感心。さすが我らがガイド班である。

六時別府入港、朝食を済ませて一路鹿児島へ。やまなみハイウェイを通過して熊本から九州自動車道に入る。八代からえびのに至る国道の難所が、今は自動車道で、トンネルの連続。長いのは六千メートルに余るのが二カ所、その他を含めて二十以上のトンネルが次々と続いていた。

知覧特攻平和会館前にて

鹿児島ICから指宿スカイラインに入り、途中でおりて知覧の特攻平和会館へと向かう。

太平洋戦争末期、沖縄決戦に史上類のない一機一艦の突撃を敢行した陸軍航空特別攻撃隊員の遺影、遺品記録等貴重な資料を収集、展示して、当時の真情を後世に伝え、世界恒久の平和に寄与するため、従来のものが手狭になったので、知覧町が昭和六十年から二カ年継続で新築したものである。

説明者のとうとうとよどみなく説明される様に、われわれはとても及ばないと思うものの、遺影を指示棒でたたくように説明されるのは（熱が入っているのであろうが）これはいただけないと思う。しかし、見学者で、われわれとほぼ同年輩の男性が、感極まってか嗚咽をもらし、果ては号泣、夫人の肩にもたれてその場を去られる一幕もあった。やはり人に感動を与えるのは話術というか、話し方に左右されるものであり、われわれとしても大いに勉強の余地がある。

この会館の構内から沿道に至る間の献燈があり、森前事務局長の寄付によるものを探した。時間の経過とともに武家屋敷の方へ回る余裕もなく、知覧をあとにし、鹿児島市内を通過して鴨池から南海郵船フェリーに乗船。錦江湾上から噴煙を吹きあげている雄大な桜島を左に見ながら海上三十五分、垂水港に上陸、直ちに鹿屋に向けて車を走らせ、鹿屋市内の旅館に一泊する。

鹿屋基地史料館

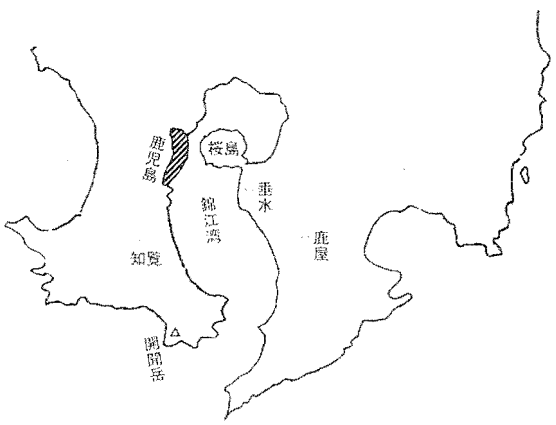
翌二十九日午前九時から鹿屋航空基地史料館を見学。ここも一昨年新築されたもので、コックピットから桜島を眼下に望むパノラマ等斬新な施設もあって、以前の史料館とは及びもつかぬ立派な建物となっていた。（私は昭和五十七年から二年間鹿屋基地に勤務した。）日曜日のこととて、ガイドは市民のボランティア二人が担当していたが、自ら説明するのではなく、質問に答えるにとどまるものであった。受付は婦人自衛官二人と職員一人があたっていた。

ここでも知覧と同様に遺影が並べられ、知覧の陸軍が海軍に置きかえられた状況であったが、当初から史料館として建設されたもので、最近の建築で新しいものだけに設備は行き届いていた。

午前十時四十分、鹿屋の研修を終え、国道二十二号線を北に走り、溝辺鹿児島空港ICから自動車道をひた走りに走り、甘日市ICでおりて、宇品から切串に渡り二十一時ごろ全員事故もなく帰島した。

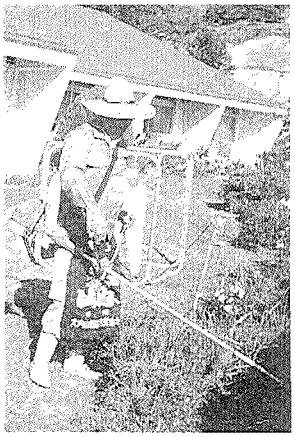
往復一千km余りの自動車旅行で、多分に強行軍のきらいはあったが、各人それぞれに感じたことは多少の差こそあれ、一味違った実のりのある研修を終えることができた。

（ガイド班　新本清一）



支える仲間

誠心園の介護



私が訪ねた時はちょうど草刈りの最中。作業の手を休めて、いろいろ話してくださいました。

「週二回、月曜日と木曜日に来ています。午前中は大体草刈りとか片づけの仕事、午後は寝たきりの人を風呂に入れるため風呂場まで運びます。一日に大体十五人くらい運びます。ただ、前の日が休みの翌日は午前、午後ともに入浴の介助、腰が痛くなります。」

「運搬の仕事は、ベッドの老人をかかえ、ゆっくりとストレッチャーに移します。この時、老人が痛がらないよう気を配ります。中には太った人もいます。そういう時は二人がかりで移しますが」

「いつごろから来ているのですか」

「四年ぐらい前からです。五年ほどここに勤め、定年でやめてのち、シルバーから来るようになりました。毎日来てほしいと言われるのですが仕事がきついので週二回にしてもらっています。朝九時から四時までの仕事。入浴の介助などでお年寄りに喜ばれるのがいちばん嬉しいです」

とにっこり。聞けば大正十年生まれとか。七十歳以上とはとても思えないほどお元気でした。

「これからも皆さんに喜ばれる仕事を…」とあいさつして誠心園を後にしました。

商品展示作業に従事して

十一月の中旬、江田島ボールの一画で「ビックワールド」の商品展示作業の仕事があると聞き、昼すぎに作業場を訪ねました。

訪ねた時は昼の休憩時、展示責任者の方と一緒に喫茶室のテーブルについて休んでおられました。

「明日から舶来雑貨の展示販売。今日は商品の搬入、展示の仕事です」

「会場は…」と聞くと、

「二階のボーリング場の北側のフロアーです」

作業は八時半から五時まで、展示台の上に商品を並べる仕事。

「出来あがるのは明日の朝でしょうね」

とは責任者の言葉。

「どういうところに気をつけて展示するのですか」

「通路がきちんととってあるか、足がかりする物がないかなど、お客さんが見易いように気を配ります」

また、

「展示販売で売れなくても、次の機会をと考え、お客さんに気持ちよく帰っていただくことを第一に心掛けています。売り上げはなかなかあがるものではありませんが、お客さんとのつながりを第一にと考えています。むずかしくて、なかなかできるものではありませんが」

「会員の仕事ぶりは…」

と聞きますと、

「品物に番号札をつけてくださったので能率よく作業がはかどりました。また、今までの経験では、話半分に聞く人が多かったのですが、この方達はとてもよく話を聞いてくれるし、返事も〝ハイ〟ときちんとしてくれる。年上の方なので、言いにくいこともありますが、それにしても、とても気持ちよく作業ができます」

と、べたほめでした。

この間、会員の皆さんはにこにこして話を聞いておられるだけ。

写真を撮って辞去しました。

矢の浦公営住宅の取り壊し

十一月中旬、矢の浦公営住宅の取り壊しと整地作業があると聞き、訪ねました。場所は矢の浦老人集会所の南側。私が訪ねた時は、倒した家屋の片付けの最中。廃材をトラックに積みこむ人、バールで倒れた家屋の解体中の人と忙しそうでした。

「作業には月曜からかかって、火、木とします。まず、家の柱にロープをかけ、車で引いて家を倒します。まわりに民家があるので、そちらに倒れないよう、また、ケガのないように細心の注意をはらいました。古い家なので、倒した時はものすごい埃でした」

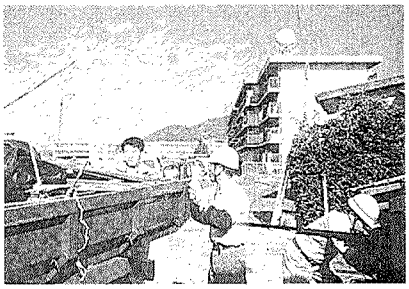
「今日は壊しに三人、廃材運びに二人かかっています。廃材の一部は、来年はじめの小用小学校のトンドに使うので、そこに運び、余ったのは町の捨て場に運びます。

釘が出ているので、ケガをしない

よう壊しや運びには気をつけています」

「作業の手順は」

「今日と明日の午前中は木材の片付けをし、来週の月曜日にコンクリートを壊し、整地にかかります。家は十坪ですが、屋敷はもうすこしあります」



「気をつけて仕事をつづけてください」

とあいさつ、辞去しました。

小用六部簡易水道水源池の除草

小用の水源池の除草ということで昼前に訪ねたところ、ちょうど昼休み、みなさん小用の方で昼食に帰られたあと。そこで午後にまた訪ねました。

「ここは小用六部簡易水道と言って、今では雑用水の水源として使われています。草取りは年に四回、今度で今年は最後になります」

「こういう水源池は以前は四、五箇所あったのですが、水道の普及につれて段々減り、今ではここだけになりました。西の谷にもあったのですが。ここの水は風呂水、洗濯、池の水などに使われています」

われら町を

「仕事の内容は」

「まず、柵にまつわりついているつる草を取り、柵内の草刈りをします。それから、地下の貯水槽の中の掃除、この下手にも水源池があり、そこも同じようにします。今日は風があって少し寒さを感じます」

と話してくださいます。

「ここの仕事は一日仕事。刈った草はホーキで集めて捨てます。この水道は、夏は冷たく冬はあたたかで、それに安く、いいと思います」

「お気をつけて」

とあいさつ、帰路につきました。裏山の紅葉がとてもきれいでした。

折にふれて思うこと

センターに入会して

私は、秋月の岡本です。四十年間船員として海の生活を定年まで行いました。

定年後は、趣味の盆栽技術を生かし、友人、知人とかの庭木の剪定を行っておりましたが、平成三年、前事務局長の森さんが近所におられ、入会を勧められました。自分の都合に合わせ、社会参加が出来るということなので、早速入会致しました。

生来、物オジしない性格なので、すぐさま仲間と打ちとけさせて戴き、今では楽しく仕事をしております。本当に入会して良かったと感じ、体調の許す限りセンターとともに歩みますのでよろしくお願い致します。

なお、剪定時期には個人的に依頼されている仕事が重なり、センターに御迷惑をおかけしておりますが、出来るだけセンターの仕事を優先するよう心掛けたいと思います。

盆栽以外、私はこれといって趣味がないのですが、最近ゲートボールを始めました。それまでは、老人の遊びと軽く考えていましたが、入ってみるとなかなか面白いもので、病みつきとなりました。センターで同好会が出来れば、仕事だけでなく更にセンターへ行くのが楽しくなるのではないかと思います。事務局の援助を出来ればお願いします。

何はともあれ、残された人生を楽しく過ごして行ければと思っています。仲良くお願い致します。

安全作業は対話から

今年こそは災害〇件を目標に日常作業に全員気合いを入れ頑張っていきたい。

みんなの努力で災害は年々減少の傾向にあるが、結果的には不幸にも通勤途上の事故が発生した。

まず、怪我をすればどの様な弊害があるか考えてみる必要がある。

(一) 怪我の程度にかかわらずとにかく痛いめをする。

(二) 何をするにも不自由である。

(三) 病院へ毎日行く事になる。

(四) 高齢のため治りが遅い。

(五) 家族に心配をかけ迷惑もかける。

(六) 気分的におもしろくない。

(七) 仕事が中断する。

(八) 関係者によって対策手続等が必要となる。

(九) シルバーセンターのイメージダウンにつながる。

以上の様に悪い面だけで、良い面は一つとして無い。

災害防止には多くの解決策があるが、これといった歯止めが出来ない。基本的には自分の安全は自分で守る心構えが大切であるが、これにも限界がある。やはり日頃お互いに意志の疎通を図り、対話によって気楽に注意し合える雰囲気作りする事が大切であり、決め手となる。

一日一日の作業は安全で始まり安全に終わる事がシルバー人材センターの発展につながる。

ご安全に。

さわやか秋風

豊後路の旅

―互助会親睦旅行―

会員にとって、年に一度の楽しい会員親睦旅行を九月二十六日から二泊三日の日程で実施しました。

今年は、約一カ月も早く計画したので、当日は盛夏を思わせる暑さでしたが、晴天にも恵まれ、すばらしい旅行となりました。

一行は、呉中央桟橋に集合し、午後八時三十分発のフェリー「由布」に乗船して一路別府に向かいました。

船内では、会員の貸し切りの船室が用意され、好みの飲物がくばられ、和やかなふん囲気のなかでお互いの話しが弾んでいました。

翌朝早く別府港に到着しましたが、別府交通センターの休けい室からのすばらしい日の出に、会員さんから感嘆の声があがり、カメラのシャッターを切る人も多くありました。

この日は、日田市まで観光バスにより足を伸ばすため、大分自動車道を西に車を走らせ、途中、霊験あらたかなお地蔵さまで知られる高塚愛宕地蔵尊に参拝しました。

この地蔵尊は、約千二百年前にこの地を訪れた僧、行基が自ら彫った地蔵菩薩が納められているお寺で、霊験あらたかであると、遠方から参拝に訪れる人も多いそうです。

祈願をするためには、お札に願いごとを書いて奉納すれば叶うといわれ、会員さんも一生懸命願いごとを書いておられましたが、願いが叶ったでしょうか。

ただし、ひとつの願いごとを歳の数だけお札に書いて奉納し、祈願しなければ、願いは叶わないそうです。

駐車場付近のみやげ物店では、大分県の一村一品運動の発祥の地となった大山町（「梅・栗植えてハワイに行こう」運動で有名）の梅製品を、おみやげ第一号として買い込んでいる会員さんも見られました。

また、文化祭の手芸品のモデルにと、竹、竹皮細工なども求める会員さんもおられました。

ニッカウイスキー九州工場には、予定時刻三十分前に到着し、工場見学をすることができました。

九州工場は、秋田、吉野と共に、日本三大美林とされている日田杉に囲まれ、豊富な水はウイスキー造りに最適とされ、各地で造られたモルト原酒をもとにブレンドして、再貯蔵しているのがこの工場の役割りだそうです。

しかし、会員さんの目的は工場内に設置されている試飲コーナー。

おみやげショップには目もくれず、グラス片手にウイスキー、リンゴワイン、梅酒コーナーに一目散。

一杯飲んで一安心、ここで一息ついてようやく大分に旅行している実感を味わっている様子でした。

さすがはシルバー会員さん、飲酒も適量にされ、バスの出発時間五分前には、全員乗車され、次の目的地に向かうことができました。

次に、九重町にある竜門の滝に到着。駐車場から展望台までの距離も会員さんは、日頃鍛えた体力を思わせる元気さで、一気に登り、雄大な滝を背に記念写真を撮っていました。

竜門の滝茶屋で、九重町特産の「そば」、「地鶏」を中心とした料理の昼食をとり、バスは一路湯布院に走りました。

道中、まだ紅葉には日が浅いようでしたが、変化する山々、高原の風景に秋を満悦することができました。

湯布院では、自由行動となりましたが、大半の会員さんは九州湯布院民芸村を見学、他の人は、その周辺を散策しながら、近くの九州自動車歴史館、金鱗湖、ゆふいん近代美術館などを見学されたようです。

三時三十分予定通り杉乃井ホテルに到着。一息入れて温泉に入り、前日からの疲れを流した後、いよいよ今宵のメインとなる宴会と観劇へと流れていきました。

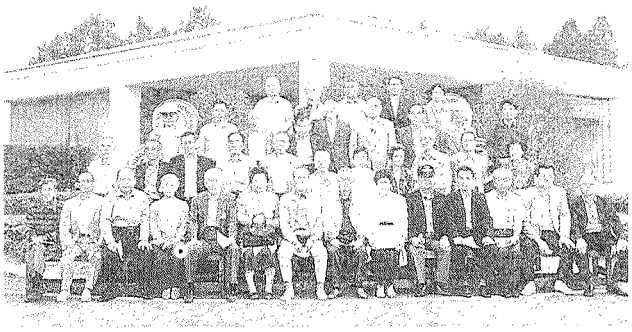
演会では、小用地区の会員さんが雨でたたられた八幡神社の秋の大祭のうっ憤を晴らすように、伊勢音頭や金箱の囃子などを演ずると、芸達者な他の地域の会員さんからもお国自慢の歌や踊りが披露され、ホテル従業員も仕事を忘れて一緒に楽しく賑やかに過しました。

宴会後は、スギノイパレスの劇場に移動し、若葉劇団の「ちび玉三兄弟」の舞踊を観ましたが、十四歳から五歳までの可愛らしい若葉三兄弟の熱演に、しばしの間、ステージに引き込まれ、時間の過ぎるのを忘れていました。

翌日は自由行動、スギノイパレスの大浴場で温泉に親しむ人や、早くからホテルを出発してラクテンチや地獄めぐりなど、三々五々、思い思いの行動をとられ、午後一時に別府交通センターに集合しました。

帰路は、別府観光港を午後二時発のフェリー「由布」に乗り、広島港午後七時に到着しました。

帰りの船中においても芸達者な会員さんが多く、船室も貸切りとなっ



ボランティアで古鷹山をきれいに

十月八日、秋の行楽シーズンを前に、恒例のボランティア活動として、古鷹山のクリーン作戦をライオンズクラブ、広銀江田島支店と合同で展開しました。

参加人員は合計二十名（うちシルバー人材センターの参加人員は八名）

当日は小雨の中、午前八時に旧NTTの広場に集合し、収集方法、注意事項に続き分担地域を決めて出発しました。

シルバー人材センターは、小用港桟橋付近と小用登山道から森林公園までの空カン、空ビン、ビニールゴミ等の収集でした。

小用港桟橋付近では、サツキの植込みや駐車場の隅に空カン、空ビン等が多数あり、ひどいのは廃車のバイクが二台もありました。

雨もあがり、それぞれ収集したゴミを軽四に積込み小用からの古鷹登山道へ向いました。

登山道では、車を止めては両側の溝づたいに進みましたが、見はらしの良い広場の草むらの中には空カン、空ビン、弁当ガラが多数ありました。

集合場所である古鷹山森林公園に全員が集合し、記念写真のあと、お互いのゴミ収集の成果を語り合い、ジュースで一服のひとときを過しました。

最後は全員が江田島公園内の椹名慰霊碑付近の収集に向いました。

ここでは、ベンチの下、草むらの中に空カンが多く、特にヤシの葉が多く落ちており、車にすぐ一杯となったので、秋月のゴミ捨場へ運び、本日の古鷹山のクリーン作戦を無事終了しました。

わずか半日のボランティアでしたが、仕事をやり終えたという爽快感と、古鷹登山客の楽しい姿を思いうかべながら、すがすがしい気持で帰途につきました。

参加者は次の方です。ご苦労さまでした。

土手二正、下野一彦、丸子重雄、尾崎健夫、宇根川徳夫、樽本將仁、風呂井侃、山佐一男

保健婦さんからのアドバイス

高齢者の健康管理シリーズⅡ

骨粗しょう症

＝寝たきりにならないために＝

骨粗しょう症とは、「骨量が減少して骨折を起こしやすい状態」と定義されています。ちょうど大根に「す」が入ったように、骨がスカスカになってしまいます。

特に、妊娠、出産、授乳にカルシウムが多く必要なため、体内のカルシウムが不足しがちな女性に多くみられます。65歳以上の女性の場合、約半分が骨粗しょうだといわれています。

骨粗しょう症になると、簡単に骨折します。特に、大腿骨の骨折は、そのまま寝たきりにつながることが多く、また、背骨が潰れることも多く、背中や腰が曲がります。

骨粗しょう症の原因は、

①カルシウムそのものの不足

②カルシウムの代謝を調節するホルモンの異常

③加齢（歳をとること）

④女性ホルモンの欠乏、遺伝、体質

とされています。

従って、骨粗しょう症を予防するには、

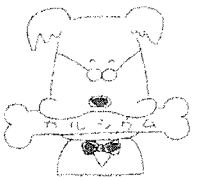
①カルシウムを多くとること

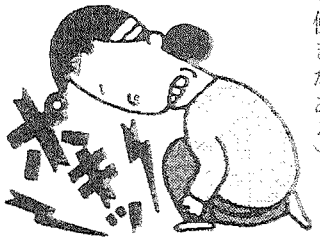
②運動をすること（骨の減り方が少なくなる）

③骨量を減少させる喫煙、アルコール、カフェインの摂取を控える

④日光によくあたる（骨のカルシウム量を増やす働きがある）

ことです。





たことも伴い、昨夜の宴会の延長戦が始まり、終始なごやかに歌や踊りが笑いの渦の中で演じられ、時間の過ぎるのを忘れるほどでした。

参加された、すべての会員のみなさんのご協力により、楽しく有意義な親睦旅行となりましたことを、心から感謝します。

最近は旅行ブーム、各会員さんに満足していただける企画は、費用などのこともあって難しい状況にあります。事務局といたしましても、毎年、前回よりは安くて楽しい旅行をと努力していますが、同じ旅行先でも多くの会員さんの参加があれば、新しい発見、楽しい出合いがあり、楽しい想い出がつくられます。

次回には是非、一人でも多くの会員さんの参加を期待します。

事務局だより

配分金に対する所得税の取り扱いについて

シルバー人材センターで得た配当金収入（雑所得）に対する所得税の取り扱いは、下記のとおり取り扱われることになっています。

記

例1　センターからの配分金以外所得税の対象となる所得が全くない会員（65歳未満）

配分金80万円(年間) －（配分金控除65万円＋基礎控除38万円）＜0

この場合は、非課税となり確定申告は不要となる。

例2　センターからの配分金以外に他に所得税の対象となる所得がある会員（65歳以上）

［{配分金－配分金控除65万円）＋（公的年金等－公的年金等控除)}

－ {基礎控除38万円＋老年者控除50万円＋その他の所得控除}］× 適用税率 ＝ 所得税額

（注）上記2例中「配分金控除」の額については、配分金が65万円未満の場合はその配分金相当額となり、また、実際にセンターの事業に就業するための必要経費（例えば作業衣を会員が自分で購入した等）がある場合には、その実際要した額も加えられる。

○　公的年金等控除の計算

センターに加入している会員の方々には公的年金を受給している人も多いと思われますが、公的年金等も所得税法上は雑所得とみなされるものであること。

したがって、公的年金等も他の雑所得とは別にして、控除額を算出しなければならないこと。

公的年金等の所得に対する控除額は、次表のとおりとなっていること。

＜公的年金控除額＞

●65歳未満の人

公的年金等の収入金額	公的年金等控除額
130万円以下	70万円
130万円超410万円以下	年金収入×25%＋ 37.5万円
410万円超770万円以下	年金収入×15%＋ 78.5万円
770万円超	年金収入× 5%＋155.5万円

●65歳以上の人

公的年金等の収入金額	公的年金等控除額
260万円以下	140万円
260万円超460万円以下	年金収入×25%＋ 75万円
460万円超820万円以下	年金収入×15%＋121万円
820万円超	年金収入× 5%＋203万円

○　配分金以外の「雑所得」または、「事業所得」のある方については、1・2の取り扱いとは異なりますので最寄りの税務署へお問い合せください。

団体障害保険について

シルバー人材センターの仕事は、発注者から請負委託されて、センターが契約するもので、発注者と会員との間には雇用関係がありません。したがって、事故があっても、労働災害補償法の適用が受けられません。

センターでは、日頃から事故の未然防止を図るとともに、安全対策を講じてきていますが、万一事故にあわれた場合、センターでは労災に代わるものとして団体傷害保険に加入していますので、仕事中（自宅との往復途中を含む）の事故については次のとおり補償されます。

保　険　金　額

死亡保険金	後遺障害保険金	入院保険金（日額）	通院保険金（日額）
900万円	900万円以内	3,000円	2,000円